

調査報告書からわかる現状と課題について(1)

- H26 年度の奈良県調査結果と比較し、男女共同参画に関する意識的な部分については、香芝市民は奈良県民の平均よりもやや高い傾向がある。(固定的性別役割分担についての考えの反対の割合、最も望ましいと思われる女性の生き方等)
- それにも関わらず、家事・育児の状況についてみると、どちらも「主に妻が行っている」という割合が7割以上と圧倒的に多く、就労の状況も男性に比べ、女性の方が無職の割合が高いほか、就業形態についても男性は「正規の職員・従業員」が6割以上で最も多いのに比べ、女性は「パート・アルバイト」が4割以上で多い等、男女間で差がある。
- また、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランスについて【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】、【「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい】という希望とその現実乖離がみられる。
- ワーク・ライフ・バランス(3種類)についても「実現できていない」「どちらかというと実現できていない」の合計割合 6～7 割合前後となっている(奈良県と同傾向)



- 香芝市民の男女共同参画に関する意識は奈良県全体に比べ低くはないが、現実的にみると男女共同参画が達成されているとは言えない。そのため、男女共同参画社会を実現するための環境がまだまだ整備されていないと考えられる。
- 実現にあたって考えられる課題として、市民に対する各種意識啓発事業をこれまでの継続で行いつつ、【仕事と家庭を両立】や【女性の社会・職場での活躍】を実現するために必要と考えられる「育児・介護休業中の代替要員確保」、「事業所への啓発事業」、「労働時間等の見直し」、「保育の施設・サービスの充実」、「家族・地域による家事・子育て・介護支援」、「高齢者等の福祉施設や介護サービスの充実」、「子育て・介護との両立についての職場の支援制度」等を考える必要があると思われる。

調査報告書からわかる現状と課題について(2)

- 女性が働いていない理由について、奈良県では「子育ての負担が大きい」、「経済的に働く理由がない」、「親や家族等の介護の負担が大きい」という回答が上位 3 つを占めたのに比べ、香芝市では「自宅に近い勤め先が見つからない」、「希望の雇用形態に合う勤め先が見つからない」、「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」という意見が上位 3 つ多いという結果になった。
- この現状は「事業所実態調査」の方にもみられる。「募集・採用、就労条件等における男女平等状況」の調査について、「男女平等」の割合が 7 割を超えるものの、どの項目についても「男性優遇」の割合もやや高い。



- これらのことから、「従来の市内事業所に対する啓発」のほかに、「企業誘致等で女性が働きやすい事業所の増加」が香芝市特有の課題であると考えられる。
- 「従来の市内事業所に対する啓発」については「事業所実態調査」の結果から、「家事・育児・介護等に対する理解」、「育児・介護の環境整備」、「勤務労働時間の見直し」について重点的に行う必要があると考えられる。
- さらに、「休業中の代替要員」について事業所が確保しやすいような市の施策を考える必要もあると思われる。